

ふるさと再発見 第32回

Re:discovery Omihachiman

近江八幡偉人伝⑤

―八幡で活躍した塩川文麟の弟子たち―

内海吉堂と北垣公麟

今回も『近江八幡の歴史』第9巻「地域文化財」より、近江八幡の偉人を見ていきましょう。今回は、画人・塩川文麟の弟子たちを紹介します。

塩川文麟は、前回ご紹介したように、幕末の動乱期に京からの避難場所として、文化活動で交流した商人を頼り、八幡に滞在しました。その時、文麟は、数人の弟子を引き連れていました。このことにより、弟子たちも八幡の商人と交流を持つことになるのです。文麟の弟子には、のちに明治期京都画壇を牽引した幸野楳嶺や野村文挙、中国画の影響を強く受けた内海吉堂、垣内雲嶺、息子の塩川文鵬、近江国ゆかりの大橋文岱、北垣公麟と数多くいますが、そのなかから内海吉堂と、北垣公麟を紹介

します。

内海吉堂（以下、吉堂）は、嘉永2（1849）年、越前国（福井県）敦賀に生まれました。八幡商人は文麟に引き続き、弟子の吉堂も支援していたようで、例えば、八幡商人の一人、森五郎兵衛が書き残した日記によると、明治43（1910）年12月14日、吉堂は北陸帰りに八幡に寄り、新町通りにある森家の控家（現在の市立歴史民俗資料館）に翌年3月30日まで滞在し、その間多数の人らの依頼で筆をとっていたと記されています。

また、同じく文麟の弟子である北垣公麟は、天保5（1834）年、但馬国養父郡（兵庫県）に生まれました。嘉永元（1848）年に塩川文麟の助筆となり、24歳の時には、京都で活躍してい



内海吉堂筆竹林飛燕図・老松鷹図屏風

ました。

公麟と八幡とのゆかりは、明治31（1898）年、次男の巳之助が池田町三丁目に住まいを購入したことにあります。公麟は巳之助宅に移り住み、本市内に多数の作品を残します。日傘、禮八幡宮（宮内町）能舞台鏡板などは、その時の大作といえるものでしょう。ちなみに息子の巳之助も絵を嗜み、美術教師として大津女学校に奉職していますが、この時の教え子に昭和期の日本を代表する女性画家・小

倉遊亀がいます。

さて、公麟の支援者の一人に、島村円山で葎業を営んでいた北川茂左衛門がいます。同家の記録「道具帳」によれば、明治20年代から30年代にかけて、北川家当主は公麟へ頻繁に揮毫を依頼しており、それに応えた作品が現存しています。

吉堂、公麟の作品も、『近江八幡の歴史』第9巻「地域文化財」の第4章3節「近代の作家群像」に多数掲載されています。ぜひご覧ください。また、9月には、塩川文麟、北垣公麟の作品を中心に、近江八幡市が所蔵するゆかりの作家の作品を、市立資料館で特別陳列します。詳しくは、改めてご案内しますので、ぜひともご覧ください。



北垣公麟筆耕作図

人口と世帯 令和3年7月1日現在 ()は前月比

総数	82,285人	(+ 28)
男	40,448人	(+ 10)
女	41,837人	(+ 18)
世帯	34,754世帯	(+ 52)

※外国人住民(43か国・地域/1,621人)を含みます。

新型コロナウイルス関連の情報は、市ホームページをご覧ください

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、本紙掲載の催しが急に中止や延期になる場合があります。開催の可否は事前に担当課または主催者へご確認ください。また、最新情報は、市のホームページ <https://www.city.omihachiman.lg.jp/> で随時発信しておりますので、ご確認をお願いします。

広報おうみはちまん

令和3年8月号

編集・発行／近江八幡市総合政策部秘書広報課

〒523-8501 滋賀県近江八幡市桜宮町236

TEL: 0748(33)3111 FAX: 0748(32)2695

MAIL kouhou@city.omihachiman.lg.jp
WEB <https://www.city.omihachiman.lg.jp>